

井上喜惟 (指揮/音楽監督)

中学卒業と同時に渡欧。ウィーンでピアノをブルーノ・ザイドルホーファー及びブルーノ・シュタインに師事。その後、指揮をクルト・ヴェス、セルジュ・チェリビダック、ホルスト・シュタインに師事。1986年よりガリー・ベルティエニのもと、さらに研鑽を積む。レナード・バーンスタインにも師事。イサーク・カラブチェフスキー及び小澤征爾のアシスタントを務めたこともある。1992年、チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会で正式デビュー。以後、チェコ、ポーランド、旧ソ連等を中心に活躍、チェコ・ナショナル交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団、他を指揮、多数のCDをレコーディング。ウィーンで指揮者のロリス・チェクナヴォリアンと知り合いになったことがきっかけとなり、1993年、アルメニア・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、朝日、日経新聞紙上で大きな話題となった。以来2000年まで客演指揮者を務めることとなった。

2000年4月、井上の尽力により同オケは日本政府の無償資金協力を得て楽器等を一新、同年9月にはそれらの楽器の披露も兼ねて、井上自身のプロデュース、国際交流基金の助成によりアルメニアの首都、エレヴァンで「日本音楽週間」が実現した。この模様は朝日新聞紙上で大きく取り上げられた。

2001年から2003年までアルメニア国立放送交響楽団音楽監督・首席指揮者。

現在、ジャパン・シンフォニア音楽監督およびウィーン国際マーラー協会からの承認を得て活動中のアマチュア・オーケストラ、ジャパン・グスタフ・マーラー・オーケストラでも設立段階から音楽監督を務めている。

2011年秋からモンゴル国立音楽舞踊大学・客員教授に就任予定。

植村理葉 (ヴァイオリン)

全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門小学生の部全国1位。第15回新日鉄音楽賞・フレッシュ・アーティスト賞受賞。ミケランジェロ・アパド国際コンクール優勝。レオポルド・モーツァルト国際コンクール最高位受賞及びモーツァルト特別賞受賞。桐朋女子高等学校音楽科を卒業しケルン音楽大学で文化庁芸術家在外研修員(3年派遣)として研鑽を積み、その後ローザンヌ音楽院、ドレスデン音楽大学に学び、いずれも最優秀成績で卒業。現在はベルリンに住みドイツのソリスト・ピザを得、欧州各国でソリストとして活躍。

ヨーロッパでオーケストラと協演したコンサートは80回を超え、チューリッゲン・フィル

ハーモニー、ハレ・フィルハーモニー管弦楽団、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン交響楽団、ボン・クラシシェ・フィルハーモニー、ケルン室内オーケストラ、サンクトペテルブルク・カメラータ、ローザンヌ室内管弦楽団、ブラハ・シンフォニエッタ他と定期演奏会や音楽祭に招待され、協演。

「きわめて優れた様式感」「一貫して緊張を保ち、聴き手に息をつく暇をあたえない」「音が美しく、表現が明澄で、清潔な音楽をつくる」「ボンの人達は彼女をウィーン古典派の協奏曲のソリストとして既に認知している」「完璧な演奏で聴衆を魅了し、聴衆は熱狂的な歓声をあげた」と新聞批評で高評を得る。

シューマンのヴァイオリン協奏曲のCDをドイツ・ソニーからリリース。パッハの無伴奏ヴァルティータとソナタ全曲をひとつのコンサートで演奏し、ベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲演奏を行うなど聴衆を魅了し続ける。2009年にカメラータ・トウキョウから『ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ・フランス・ヴァイオリン作品集』(CMCD-28183)をリリース、新聞、音楽雑誌上に推薦盤として選ばれ、高評を得る。

(www.riyo-uemura.com)

ジャパン・シンフォニア

創設以来年々進化を続けるジャパン・シンフォニア。主軸の多くが独逸圏で学んだメンバーで構成される、日本では稀なオーケストラである。「ジャパン・シンフォニア」は音楽監督、井上喜惟の「国内のみならず、日本から海外に向け本格的な音楽を発信するオーケストラを作ろう。」という提唱のもと、2003年秋に発足した。その主軸メンバーには音楽監督、井上喜惟同様に長い年月欧州での研鑽、演奏活動を持ち、現在も国内外で活躍する日本のトッププレーヤーたちが集まった。メンバーの多くも欧州での留学・演奏経験者である。充分な準備による音楽的な方向性の相互理解を通し、「オーケストラは巨大な室内楽」であるという、本来の原点に立ち返ることをポリシーとして掲げている。その意味でも稀有な存在として、多くの音楽関係者から絶賛されている。

年2回行う定期演奏会の他、毎夏行うBJFファミリーコンサートは末就学児から大人まで、本物の音楽に触れる機会として高い評価を得ている。映画製作にも積極的に協力し、これまでにユースケ・サンタマリア主演の「交渉人・真下正義」や鈴木京香、広末涼子他が主演した「Flowers」にも出演している。定期演奏会ではモーツァルトからウェーベルン、シュニットケまで幅広い作品を取り上げているが、CDとして発売されたベートーヴェン「英雄」、ブラームス交響曲第1番、マーラー交響曲第4番は産経新聞、レコード芸術、音楽現代各誌で推薦盤として注目された。

「心のとしょかんプロジェクト」からのお願い



このたびは「心のとしょかんプロジェクト」にご賛同いただきまして、心より感謝申し上げます。井上喜惟さんとはコンサートのお仕事を通じ8年以上のお付き合いで、公私ともに尊敬申し上げている人生の先輩です。私は司会として毎年夏に行われるファミリーコンサートのお手伝いをさせて頂いております。3.11のときもすぐに「モンゴルに居るけれどすぐにチャリティコンサートをすることになりました!」とメールを頂きました。同時に私も「心のとしょかん」のボランティアを始めた時期でした。「音楽でしか僕等は被災者の皆さんの力になれませんから」という謙虚な井上さんとジャパン・シンフォニアの皆様。そして「言葉の持つ力で被災者の皆さんの力になりたい」という「心のとしょかん」の思いが呼応して、このたびのご縁となりました。このコンサートを通して被災地への思いが共に広がっていくことを心より願っています。会場の皆様から頂いた「こころ」は、責任を持って現地にお届けします。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。(永井美奈子)

心の図書館プロジェクトとは

「心のとしょかん」プロジェクトは、仮設住宅の集会所へのミニ図書館の寄贈やイベント活動を通じて、仮設住宅生活の方々のコミュニティづくりや人間関係形成のお手伝いをするためのボランティア活動です。

「心がホッとするような」「元気がでるような」本を選び、インターネットで広く一般の方々に協力を呼びかけ、賛同者様に新品の本を寄贈いただき、ミニ図書館として被災地にお届けしています。

「心のとしょかんプロジェクト」を検索「参加方法」をご参照ください!
<http://www.facebook.com/kokoronotoshokan?sk=info>

音楽とともにあること、それは
人生をこころ豊かにすごすこと

こころに響く健やかな音は、人の気持ちもからだも癒してくれます。目を閉じ、じっと耳を澄ませると、澄み切った音がどこからとなく聞こえてくるような気がします。



ベーリンガー・インゲルハイム ジャパン株式会社

〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
URL: www.boehringer-ingelheim.co.jp

ドイツ生まれのグローバルな製薬企業のわたしたちは、
ジャパン・シンフォニアを支援しています。

井上喜惟 / ジャパン・シンフォニア ライブCD

好評
発売中!



【ラヴェル】
・組曲「クーブランの墓」
【フランク】
・交響曲二短調
<ALT187>

【エルガー】
・エレジー Op.58
【ブラームス】
・交響曲第1番ハ短調 Op.68
【ショパン (ムラヴィンスキー編曲)】
・練習曲「別れの曲」 Op.10-3
<ALT153>

【ベートーヴェン】
・序曲「コリオラン」 Op.62
・交響曲第3番 変ホ長調「英雄」 Op.55
<ALT033>

【ルクー】
・弦楽のためのアダージョ
【マーラー】
・交響曲第4番ト長調
(ソプラノ：蔵野蘭子)
<ALT144>